

第60回 日本伝統工芸展



日本工芸会総裁賞 《柘造器》中島武仁
第60回日本伝統工芸展より

特別陳列

能島芳史展 - 15世紀フランドル絵画からの展開 -

特別陳列

加賀藩の美術工芸

石川の名宝 - 国宝・重文・県文 -

優品選

- 11月の企画展示室
- 企画展Topics
- ミュージアムレポート
- おしらせ
- 11月の行事予定
- 所蔵品紹介



風蝕・K 1998年 能島芳史
能島芳史展より

第60回

日本伝統工芸展 金沢展

◆主催／石川県教育委員会、日本放送協会金沢放送局、朝日新聞社、北國新聞社、日本工芸会 ◆後援／文化庁、富山県教育委員会、福井県教育委員会

10月25日(金)～11月3日(日・祝) 会期中無休

1F 企画展示室

※最終日(3日)は午後5時まで
(入場は午後4時30分まで)



文部科学大臣賞
《沈金箱「忍冬」》西 勝廣(石川)



NHK会長賞
《流水文四方釜》畠 春斎(富山)



第60回展記念賞
《象嵌花器「芽吹き」》村上 浩堂(石川)



日本工芸会奨励賞
《蒔絵箱「水面」》寺西 松太(石川)

我が国は、四季の気候条件に恵まれ、多様な自然環境を形成しています。その中で、各地の風土に根ざした工芸品が生み出され、伝統技術を大切に継承し発展させてきました。本展は、この優れた伝統技術の保護と後継者の育成、ならびに伝統工芸に対する普及を目的として、毎年開催されるものです。

六十回の記念となる本年は、陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・諸工芸(七宝・硝子・戔金など)の七部門の入選作品六一点の中から、重要無形文化財保持者・受賞者等の作品と、北陸三県、及びその他の地域の入選作品を含め、三五八点を展示します。

今回の石川県の入選者は六十八人で、そのうち中嶋武仁氏(木竹工)が日本工芸会総裁賞、西勝廣氏(漆芸)が文部科学大臣賞、村上浩堂氏(金工)が第六十回展記念賞、寺西松太氏(漆芸)が日本工芸会奨励賞、山田勘太氏(漆芸)が日本工芸会新人賞を、それぞれ受賞されました。

◆観覧料

		個人	
一般		六〇〇円	五〇〇円
大学生		四〇〇円	三〇〇円
高校生以下	無料	無料	無料
		団体(二十名以上)	
		五〇〇円	三〇〇円

※当館友の会会員は受付での会員証提示により団体料金に
なります。

◆展示作品解説

開催日	11時	13時30分
10月26日(土)	《漆芸》市島桜魚	《陶芸》宮西篤士
27日(日)	《金工》大澤光氏	講演会
28日(月)	《金工》中川衛	《染織》二塚長生
29日(火)	《陶芸》中田一於	《漆芸》前 史雄
30日(水)	《人形》紺谷力	《木竹工》川北良造
31日(木)	《木竹工》水上隆志	《染織》坂口幸市
11月1日(金)	《木竹工》灰外達夫	《漆芸》小森邦衛
2日(土)	《陶芸》武腰 潤	美術館長 嶋崎 丞
3日(日・祝)		

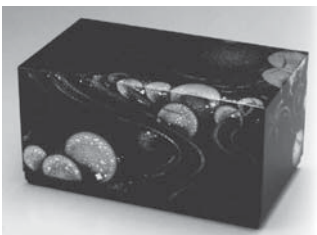
◆講演会

演 題 「人間国宝が語る日本伝統工芸展六十回とこれから」
司会進行 嶋崎 丞 美術館長

講 師 川北良造氏、前史雄氏、吉田美統氏、三代魚住為樂氏、
中川衛氏、大澤光氏、小森邦衛氏、二塚長生氏、
中野孝一氏、灰外達夫氏
以上一〇名の重要無形文化財保持者

日 時 10月27日(日) 午後1時30分

会 場 美術館ホール《聴講無料》



遺作出品《蒔絵箱「水声」》向井武志(石川)



日本工芸会新人賞《乾漆蓋物「夕風」》山田勘太(石川)

学芸員の眼

「加賀の松雲公」加賀藩五代藩主・前田綱紀は、学問を振興した大名として明治時代に至るまでその業績は高く評価されました。たとえば、石川県が鈴木大拙や西田幾多郎らの独創的な哲学者を輩出している背景にも、前田綱紀が推進した書物の体系的な収集と、それを基盤とした充実した教育システムが機能していたことが挙げられます。

しかし西田幾多郎の随想にあるように、明治時代にはいり加賀藩に集積された書物類は多くが流出し、時には内容への顧慮もなく単なる「もの」として扱われました。深く学ぶことの重要性が改めて認識されてきた今日、人間の陶冶と政治の根幹に学問を据えた前田綱紀の姿勢から教えられることは非常に多いと思います。

本展は、前田育徳会・尊經閣文庫分館で展開される特集、特別陳列の中で「定番」として幅広い人気を得ています。その理由は、書籍・典籍や絵画、工芸から公開される機会が非常に少ない文化財を選んでご紹介すること、「百工比照」の中からいくつかの部門を必ず紹介すること。そして、周文、雪舟作と伝えられる日本中世絵画の名作が同時に展示されるのではないかと思えます。

今回は、重文「祭礼草紙」を巻頭から巻末まで展示しており、全国の研究者、愛好者の方々の大きな話題となっています。また、伝周文の「四季山水図」、伝雪舟の「四季花鳥図」（以上重文）と狩野探幽の「達磨渡江図」、そして今回は岸駒の「松下飲虎図」を合わせて展示していますので、日本の中世から近世に至る絵画の展開における中国の影響を概観していただくことができます。

そして重文「百工比照」からは「色漆類」と「羽織類絵図」を展示しています。そこには、「たいまいづくし」や「かわきせいがい波」など、今日ではなかなか実際に見ることができなくなった漆芸の技法や、諸大名の陣羽織の意匠が系統的に分類されており、まさに百科事典そして図鑑の様相を呈しています。この「百工比照」は、博物学に傾倒した加賀藩五代藩主・前田綱紀ならではの事業とすることができそうです。「日本伝統工芸展金沢展」が開催される時期でもあり、この機会には是非ご覧いただきたいと思えます。

能島芳史展

— 15世紀フランドル絵画からの展開 —

10月18日(金)～11月17日(日) 会期中無休

学芸員の眼

能島氏の作品は実に堅牢で美しい絵肌を持っています。そしてずっしりと重いです。合板のパネルに白亜の下地。描くことと削ることが繰り返され、作品は出来上がって行くのでしょうか。以前アトリエをお伺いした際に目に止まったのですが、一隅に奇妙な物体が並んでいました。これが話に聞く、ミイラ化した十数年ものカボチャかと驚いたものです。なぜ他は腐って行ったのに、これらは腐らずに干からびて残ったのでしょうか。小さな物体に、縁を感じます。その不思議さを考えていると、能島氏にはある世界が浮かんでくるのでしょうか。美しい白亜の下地に巨大な干からびたカボチャを一個、そして歯車や虫をその中に描くのです。驚くべき発想だと思います。

今回の展覧会は、能島氏の三十年の創作の歩み、各時期の作品から二十一点をピックアップしてご覧いただくというものです。その歩みは、「15世紀フランドル絵画からの展開」という副題にあるように、油絵の発祥地フランドル(現在のベルギー、オランダ、フランスにまたがる地域)絵画、中でもヒエロニムス・ボツシュ(一四五〇年頃～一六一六年)に魅了され、ボツシュの作品と向き合い、そしてどう現代の自分の作品に取り入れるか、というものでした。

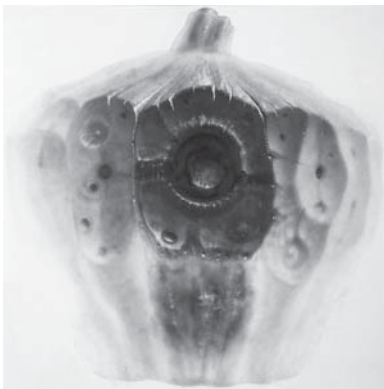
能島氏の創作の原点は、小学生の頃画集で見たボツシュの作品でした。たとえば『快楽の園』には、「ツリーマン」と呼ばれる胴体が卵の殻で中は居酒屋となっている巨大な男や、人間を責める虫とも獣ともつかぬ妖怪たち、池に浮かぶ透明な球体と尖塔など、実におどろおどろしくも怪しく美しい世界が展開されています。この驚愕の世界への憧れが能島氏の各時期の作品に息づいているのです。

展示室を見て回りますと、ほぼ四期に創作は展開

していると感じます。まず、「聖ヒエロニムス」の模写。ゲント美術大学修復科の教授が絶賛したといいます。次いで黄土色と青色の対比が美しく、円筒に入った少年や怪鳥が描かれる作品。家と思われる物体やキノコ、花などの周りに蝶や魚が飛び、妖怪たちが跋扈する世界。そして、二〇〇六年の「風蝕G」を転回点とし、干からびた南瓜を描く近作。

ずいぶん変化したようにも思えるのですが、美しい絵肌と幻想の世界は共通しています。合板のパネルに白亜地の下地を施し、透明で艶のある絵具を何層も施して作品は構築されるのです。

しかし四期からの巨大な南瓜への転換には大きな飛躍が感じられます。干からびてこぶし大になった南瓜を百号以上の大きな画面いっぱい描くのです。その刻まれたシワに不思議な世界が潜んでいて見飽きません。ぜひ能島氏の幻視の世界をご覧ください。



風蝕・南瓜F 2010年



風蝕・華 1997年

2Fコレクション展示室

優品選

工芸・彫刻・日本画

10月18日(金)～11月17日(日)
会期中無休

第2展示室

石川の名宝

— 国宝・重文・県文 —

10月18日(金)～11月17日(日) 会期中無休

毎年十一月一日から七日までの一週間は「文化財保護強調週間」です。この期間内には、各所で文化財に親しむ機会が設けられており、当館でも第2展示室で県内に所在する指定文化財を公開しています。

石川県には、重要文化財として建造物四十三件、七十七棟、国宝二件を含む美術工芸品八十六件が所在しています。分野別にみると、絵画九件、彫刻十六件、工芸品二十三件、書籍・典籍二十一件、古文書十件、考古資料七件という内訳です。

美術工芸品の所蔵数では全国二十一位に相当し、北陸では富山の三十件、福井の八十件を上回って最大数を誇っています。建造物も十七位と上位に位置づけられます。

こうした文化財が伝わる理由として、前田育徳

近現代工芸部門では今回、松田権六の「蒔絵勇馬図平卓」を初めて展示します。本作は昭和十二年春に制作されたもので、堂々と進む黒馬が引っかかりや高蒔絵、螺鈿の技法によって見事に表わされています。随所に伝統的な蒔絵の技法が駆使されており、優雅さを伝えます。松田権六の初期作品をぜひご覧ください。



松田権六「蒔絵勇馬図平卓」

彫刻分野では日本画・洋画と合同で、第3展示室・第6展示室にて彫刻優品との競演をご覧ください。主な展示品には、敬虔で深い宗教性を感じさ

会・尊経閣文庫が所蔵する国宝・重要文化財が百点にも及ぶことからわかるように、加賀藩主前田家の文化政策が大いに貢献しています。前田家が収集し、育成した数々の名品が、時代を超えて今日に引き継がれているのです。

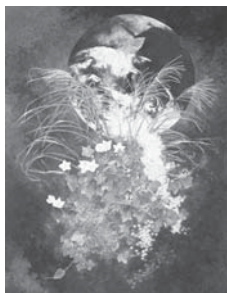
今回の展示では、第1展示室の「色絵雉香炉」とあわせて国宝二件、重要文化財七件を展示しています。雉香炉以外はすべて社寺や個人の方から寄託を受けている作品です。当館が所蔵する重要文化財は、新春に開催する「あなたを選ぶベストコレクション 石川県立美術館 名品の森」に登場します。人気投票に参加してください。



圓智院妙淨(篠原一孝夫人)画像
妙法寺

せる中村晋也作「ミゼレーレVI」。また率直な鑿跡と若い女性の健康美が融合して清新な雰囲気、晝間弘作「朝」などです。「芸術の秋」に相応しい彫刻優品の数々をお楽しみ下さい。

日本画でも季節に応じた優品を選んで展示します。四季を意識し、豊かに季節の風情を描いてきた日本画にとって、秋は格別な味わいを持たせます。冬支度を始め色づく山々、天空と地上の調和、いきものたちの競演。日本画にとって秋は題材に事欠きません。先般亡くなられた稲元実氏の「21st C 水の星」では、地球と秋草の不思議な構成に、地球の未来を案ずる作者の優しさが伝わります。



稲元実「21st C 水の星」



中村晋也「ミゼレーレVI」

第7～9展示室

第24回

石川県水墨画協会公募展

11月13日(水)～11月17日(日) 会期中無休

◇入場料無料

◇連絡先／能美市高坂町八九九のー一一五

事務局長 佐藤 剛

電話 〇七六一一五五―五二九九

石川県水墨画協会は、平成元年度発足、同二年に第一回公募展を開催し今日に至っております。公募展は石川県内の水墨画会諸会派及び一般個人を統合する当協会が行う展示会です。これは、過去の公募展の実績に照らし承認された会員の研鑽の場であると同時に、広く県内より一般公募し、厳正な審査の上入選作を展示し、水墨画の普及発展に寄与することとしております。従って各会派主宰の作品を始め、会員並びに一般公募の意欲的な表現による、楽しいな協会展ならではの作品をご覧いただけると思います。

多くの方々のご来場をお待ちしております。

第7～9展示室

第66回

示現会展巡回金沢展

11月6日(水)～11月10日(日) 会期中無休

一般社団法人示現会は、本年四月、東京の国立新美術館で第六十六回展を開催しました。

巡回金沢展では、昨年に続いて本部基本作品六十一一点(受賞作品を含む)と地元石川県作品三十七点、合計九十八点を展示します。示現会は堅実中正、清新な具象絵画を目指して、昭和二十二年石川寅二を中心に創立以来、(故)大内田茂士、(故)榎原健三の両芸術院会員を輩出しています。平成二十一年石川県支部が承認され、以後毎年巡回金沢展を開催しています。今後とも県内美術界の恒例行事となることを目途に努力、精進いたします。

◇入場料

一般五〇〇円(一〇名以上の団体四〇〇円)

六十五歳以上四〇〇円 大高生三〇〇円

※障害者手帳をお持ちの方(付添者含む)

中学生以下 無料

◇連絡先／森脇位泰

電話 〇七六一二二―一五三七

企画展 TOPICS

石川県立美術館 名作の森

石川県立美術館は今年、開館三十周年を迎えました。昭和五十八年十一月、それまでの美術館(現在の石川県伝統産業工芸館)から現在地へ移転し、作品点数一、三二三点でのスタートでした。旧館時代から「色絵雑香炉」「古九谷」の美術館として全国的にも知られていましたが、新たに近現代の絵画・彫刻も加えて今日の姿になっていきます。そして今年、所蔵作品は三、二二〇点にまで増えています。

当館の作品収蔵は、「石川県の芸術的個性を活かした地方色豊かな美術館」という考え方に基づいています。

石川県は、江戸時代から加賀藩主前田家の保護育成政策により文化の華が開き、その伝統が今日まで継承されています。古美術の歴史的名作が伝来している上に、作家の層も厚く日本芸術院会員、重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定される作家も多く、水準の高い美術工芸の盛んな地域として知られています。

そこで石川県立美術館では、地域文化の集積をめざして石川県ゆかりの作家を中心に作品の収集を行ってきました。その作品をご覧いただくのがこの「石川県立美術館 名作の森」展です。

今回の展示では、「所蔵作品の人気投票」というかたちで皆さんの声を反映します。九月に始まった投票は、はがきや館内での投票に加え、インターネットでも随分投票がありました。間もなく締め切りとなります。まだ投票されていない方はぜひ参加してください。評判の作品なのか、それとも思いもよらない作品が選ばれるのか、大いに楽しみです。



2F 投票所です

名作の森 作品投票用紙

フルネームでなくても、作品が特定できれば結構です。不明のものは空欄で結構です。

投票用紙	作品名	作品番号
投票用紙	作品名など	
投票用紙	作品名	作品番号
投票用紙	作品名など	
投票用紙	作品名	作品番号
投票用紙	作品名など	

お名前
性別 男性・女性
年齢 10歳未満・10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代・80代・90代以上
ご住所

投票期間：平成25年9月1日(日)～10月31日(木)
投票いただいた方には抽選でオリジナルグッズを差し上げます。

石川県立美術館

作品投票用紙



鑑賞講座・学校出前講座

九月十五日(日)、展示室の作品と楽しく出会う小学生親子対象の鑑賞講座が行われました。今回は、「屏風がいつばいーお話ししよう」というテーマで「俵屋宗達と琳派」の展示の鑑賞会です。この展覧会には子どもたちにはあまり馴染みがない屏風や巻子、掛幅といった形態の作品が展示されています。そこで、講義室でこの屏風や巻子、掛幅の取り扱いを実演し、また、子どもたちにも実際に触れてもらうなどしてから展示室に入りました。まずは、少しお馴染みになった屏風、巻子、掛幅に関するクイズでウォーミングアップ。今回はどんな作品か皆でお話ししながらみてみようということ、俵屋宗達の『子犬の図』や尾形光琳の『風雷神神図』の作品などでセリフを考えたり、どんな場面を表しているか想像したりしてみました。特に『風雷神神図』では、お子さんだけでなく保護者の方を含め、風神と雷神がライバルだという意見と、いや仲良しだという意見に別れるなど、見る人によって感じ方が違うことを知り、楽しい体験が出来たとの感想もいただきました。「子どもにはどうかしら?」と敬遠しがちの日本美術の展覧会ですが、最後には親子でじっくりお話ししながら気に入った作品を見つける姿が印象的な講座になりました。

六月に一校だけ開催された今年度の出前講座ですが、九月二十六日に金沢市立戸板小学校で秋の出前講座がスタートしました。五年生を中心に授業させて頂きましたが、友だちと活発に意見を交わしながら興味を持って鑑賞してくれました。今後の出前講座は十一月まで、加賀市から能登は富来町までの九校で開講予定です。



「スマートフォンサイト」始めました

当館のホームページは一日平均四〇〇件ほどのアクセスがあります。そのうち三割弱の方が、スマートフォンやタブレットPCなどを利用して閲覧しているというデータが出ています。しかし、スマートフォンの小さい画面でパソコン用のホームページをご覧いただくのは、なかなか見づらいもの。そこでスマートフォン用のページを開設致しました。所蔵品データベースなど資料満載のパソコン版とは違い、展覧会情報や催し物案内など、実際に美術館へご来訪いただく方を前提とした内容に特化しています。パソコン版トップページのヘッダー部分右側の入り口よりスマートフォンサイトに入れます。「グーグル」や「ヤフー」などの検索サイトからアクセスするとスマートフォンサイトを表示するかを尋ねてくる仕組みにもなっています。スマートフォンを使用されている方は、どうぞ一度ご覧ください。

また、当館では無線LAN環境の整備も進めています。現在、エントランスと一階の情報・図書コーナー前でドコモとフリースポットのWiFiが使えるようになっていきます。詳しくは当館ホームページをご覧ください。



スマートフォンサイトのトップページ

十一月の行事予定

■土曜講座	午後一時三〇分～	講義室	聴講無料
十六日(土)	加賀藩の美術工芸	高嶋清栄	学芸第二課長
■キッズプログラム	午後一時三〇分～	2階ロビー集合	参加無料
十日(日)	鑑賞講座	能島芳史展	アートかるたを楽しもう

曲子 光男 まげし・みつお 大正4年-平成23年(1915-2011)



深閑とした山間を斜に切る滔々とした滝。そこは晩秋の冷気に満ち、清新な空気に背筋も伸びるようです。この絵の前に立つと古来より滝が信仰の対象とされたことも、頷けるのではないのでしょうか。滝は東洋山水画の格好の素材として、多くの画家を魅了してきたのです。

作者曲子光男氏は、日本画に前衛の旋風を起こした、堂本印象率いる東丘社で活躍しました。自然の中に構成的な要素を効果的に取り入れるのは、東丘社仕込みの前衛的手法といえるでしょう。岩肌は箔足(隣り合う箔の重なり部分)を生かした直線的な技法で、抽象的でありながら伝統的な東洋画の流れを感じさせます。

北海道に生まれた氏は幼少時、かほく市

(当時河北郡七塚村)にある祖父の実家で過ごします。その後、遠縁にあたり友禅業を営む京都の曲子家に養子縁組みをしました。このことは氏にとって、日本画家への道の大きな契機となります。京都市立美術工芸学校の絵画科から、本科に進み、在学中に東丘社の門をくぐります。文展への初出品「濱木綿の丘」が選奨(現在の特選)になるなど、早くから頭角を現しました。戦後も暫く疎開の為に七塚に住まいするなど石川との縁も深く、昭和五十五年からは金沢美術工芸大学で後進の育成に努めています。昭和五十九年京都府文化功労賞を受賞。東丘社の顧問、日展では参与を務めました。

次回の展覧会

会期:11月20日(水)~12月15日(日)
会期中無休

前田育徳会 尊経閣文庫分館		第2展示室	
名物裂と遊戯具		大乘寺の文化財	
第3展示室	第4展示室	第5展示室	第6展示室
木版の美	銅像	明治の工芸	ふれる美術

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 350円(280円)
大学生 280円(220円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金
毎月第1月曜日はコレクション
展示室無料の日(11月は4日)

今月の開館時間

午前9:30~午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00~午後7:00 年中無休

11月の全館休館日
18日(月)~19日(火)

広告

毎週水曜日は

Meiカード
ポイント
プラスデー

Meiカード
通常ポイント

+ 3%
ポイントプラス

※催事場、地産食品売場などご奉仕品は、通常通りのポイントとさせていただきます。詳しくは売場係員におたずねください。

MEITETSU
MIZA
めいてつ・エムザ
金沢・むさしが辻 TEL代表(076)260-1111
http://www.meitetsumza.com/
10時~20時 ●地階レストラン街・書庫は21時まで

石川県立美術館だより
第361号(毎月発行)
2013年11月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/